

山本一太の

## 知事コラム 群馬の宝「尾瀬」の未来

1月24日(土)、私が理事長を務める尾瀬保護財団の設立30周年記念フォーラムが東京国際フォーラム(東京都千代田区)で開催されました。財団関係者の他、県内外から駆け付けた「尾瀬ファン」で定員240人の会場は立ち見が出るほど盛況となり、大変な熱気に包まれました。尾瀬の知識を深めると共に、今後の取り組みについて熱い議論が交わされ、とても意義深いイベントとなりました。

東京大学大学院准教授の山本清龍氏やまもときよたつによる基調講演では、国内外の国立公園の動向を踏まえた、尾瀬の魅力や価値を未来に継承していくための目指すべき方向性が提起されました。

また尾瀬で新たな取り組みを始めている5人のパネリストとのディスカッションでは、私が司会進行役を務め、尾瀬の保全と観光のバランスをどのように図っていくべきか意見が交わされました。幅広い視点からの意見は、今後の尾瀬の未来を考える上で、大変参考となりました。

素晴らしかったのは、今回会場まで来てくれた県立尾瀬高校の生徒の皆さんです。質疑応答では真っ先に手を挙げ、堂々と自分の意見を発表し、疑問点を質問するなど、その姿はとても頼もしく、感銘を受けました。彼らのような若い世代が、尾瀬に関心を持ち、学び、そして真剣に考えている。このことが、尾瀬の持続可能な未来につながるのだと確信しました。

群馬の宝であり日本の自然保護の原点でもある尾瀬を守っていくことは、今を生きる私たちの使命だと考えています。これからも多くの皆さんから愛され続ける存在となるよう、尾瀬が目指すべき姿について考えていきたいと思えます。



ディスカッションで司会を務める  
山本知事(手前)